

第4回 健康維持増進住宅研究委員会 議事要旨

1. 日時： 平成21年3月30日(月) 15:30～17:30
2. 場所： スクワール麹町 3階 錦華
3. 出席者： 村上委員長、坊垣副委員長、吉野部会長、田辺部会長、小泉部会長、伊香賀部会長、岩村委員、小谷部委員(代理：櫻井氏)、星委員、坂本(功)委員、坂本(雄)委員、信田委員、東嶋委員、米田委員、秋林委員、村木委員、富田委員、三岡委員、尾菌委員
坂本(努)委員、鈴木委員(代理：木下氏)、渡邊委員(代理：佐藤氏)
和泉住宅局長
〔オブザーバー〕文部科学省、(独)都市再生機構、(独)住宅金融支援機構、(財)ベターリビング、(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター、(財)日本住宅・木材技術センター、健康維持増進住宅研究コンソーシアム
〔事務局〕国土交通省住宅局住宅生産課、(財)建築環境・省エネルギー機構、(株)野村総合研究所
4. 議事： (1) 各部会等の活動報告
1) 健康影響低減部会
2) 健康増進部会
3) 設計部会
4) 健康コミュニティ推進部会
(2) 普及促進委員会活動報告と計画
(3) 海外視察報告
室内空気環境と健康に関する海外の先端研究について
(4) 設計コンペティション報告
(5) 質疑及びフリーディスカッション
(6) 今後の進め方について
5. 議事概要： 議事に先立ち、国土交通省和泉住宅局長、村上委員長より挨拶があった。

[和泉住宅局長あいさつ]

日本は超高速で高齢化社会が進んでいる。また人口は減少傾向にある。日本が今後生き抜い

て行くためには、なるべく長く健康で、知的生産性の高い人たちが高齢期においても生き生きと仕事ができる社会を目指さないことには明るい展望は開けない。この研究会はいわゆる予防医学や予防介護を超えた更に先を見据えた日本のあるべき姿を指し示してもらえようような重大なテーマと考えている。

研究は約2年を経過し、3回のシンポジウムも開催し、多数の方が参加される等、関心も高まってきている。最終年としてそろそろ政策的なアウトプットをイメージしながら、更に研究を進めて頂きたい。

[村上委員長]

研究の背景には3つの大きな要素があり、1．地球環境問題の深刻化、2．少子高齢化社会の進展と社会経済構造の激変、3．住宅市場を取り巻く環境の変化と量から質、新築からストックへ流れつつあることが挙げられる。これらに対し健康という視点から、住宅あるいは国土交通行政がどう日本社会で貢献できる、ということを目指している。

そのうち、各部会ではそれぞれのテーマで研究を進めているが、それほかに健康維持増進住宅設計コンペを開催し300点以上の応募、「すまいと健康と題した書籍の出版」計画、モデル住宅の建設等の具体的の計画が固まりつつあり、注目度も高くなってきている。

(1) 部会の活動報告(資料5～8)

4部会の部会長(健康影響低減部会:吉野部会長、健康増進部会:田辺部会長、設計部会:小泉部会長、健康コミュニティ推進部会:伊香賀部会長)から、各部会の活動状況及び今後の課題等について報告があった。

(2) 普及促進部会(資料9)

坊垣副委員長から、平成20年度の業務として、平成20年7月の健康維持増進住宅研究コンソーシアムの設立、2回のシンポジウムの紹介、米国・カナダの先端研究調査に関して報告があった。また平成21年度の計画として欧州での海外調査、第2回の設計コンペの開催及び一般向けの健康増進住宅に関する出版計画の報告があった。

(3) 海外視察報告(資料10)

吉野健康影響低減部会長から、最近の米加におけるシックハウス、ダンプビル、ヒートショック等に関する最新研究について、カナダにおいてはカナダ住宅金融公庫、国立科学研究所、ヘルスカナダ、米国では環境保護庁、環境保護局、住宅都市開発省等での視察・調査結果について報告がされた。

(4) 設計コンペティション(資料11)

小泉設計コンペワーキング主査から健康維持増進住宅アイデアコンペについて報告があった。審査経緯として、308点の応募、13点の一次審査入選及び公開審査による第二次審査の概要及び審査結果として最優秀賞2点、優秀賞1点、特別賞3点の概要報告があった。

(5)フリーディスカッション(主な意見)

- ・ 「健康増進」というキーワードから枠が広がって、コミュニティとかライフスタイルといった視点での検討も進められているが、出生率が健康維持増進住宅というテーマとどこかでリンクするのかわからないのか、あるいは議論されてきたのか伺いたい。

まだ研究に至っていないのが実情だが、コミュニティ推進部会で行っている詳しい調査をすれば、分かるかもしれない。今後検討させていただきたい。

- ・ 住宅という環境、住宅の周辺を含めたコミュニティというものの中で、少子化という問題とどう向き合えるのかというのは関心を持っているので、検討をお願いしたい。
- ・ 出生率を増やすには基本的には所得保障が有効。寿命については都市部より地方の方が長いということと同時に、所得及び住居の広さも相関する。個人要因の中に、基本的に所得と学歴といった社会経済的な要因をもう少し入れていただきたい。

また、こういった家に住めば寿命が短く、逆にこのくらいをクリアすれば少なくとも一定程度の寿命は確保できるだとか、そういうデータの積み重ねをしながら住民にわかりやすく情報提供していくことで、限られた所得であっても一定のレベルの土地・住宅取得の意思決定ができるような条件整備ができれば素晴らしいことに繋がると思う。

- ・ 設計コンペティションで提案された内容が健康維持増進住宅の評価にどのように活用されるのか教えて欲しい。

提案の中には健康維持増進住宅に直接結びつきそうなものもあれば、新たな視点を持ち込んでくれるような提案もある。我々が調査研究を行っていくときの幅を広げていくような参考にしていきたい。

- ・ 例えば、足の裏の提案についてはどのような参考情報となるのか？

イギリスには足医者という国家資格の専門職もあり、足を健康の視点からとらえるというのは非常に重要な視点だと思った。

あくまでアイデアコンペなので、実現性という点からは問題があるが、非常に奇想天外で全く新しい哲学的内容を含んでいるものもあるが、逆にパッシブウォールとか実現性の高いものもあり入選作品には両方選定している。

- ・ 設計コンペの成果については対外的に発表されるのか？

今年出版を予定している本の中に、具体的に提案のあったものの幾つかは紹介したい。

まだ十分検討が進んでいないが、本コンペの成果は一般的に分かり易く伝えられるようにして、今後広く社会発信していきたい。

- ・ いい設備を入れればそれで終わりということではなくて、それをどういうふうにするのか。結果として、その省エネ、省CO2がどういうふうに進んでいくのか、健康がちゃんと維持増進されているのかどうかというところは非常に重要で、ユーザーに伝える場合に、こういう設備をこういうふうにすることによって健康維持増進に役立つというところまできちんとコンセプトとして出していくことが必要。

- ・ 環境に関心の高い人は健康に関心が高いと田辺先生の報告にあったが、逆に健康に関心の高い人というのは環境に対しての関心も高いということが十分にありえるのではないか

と思う。それによって環境対応と健康対応とがうまく相乗効果を持って進められていく可能性があるのではないかと期待している。例えば、お風呂のリラクゼーションをやると結構お湯をたくさん使うので、エネルギーはたくさん使ってしまうということがあると思う。

ただ、特に家庭の場合というのは、設備だけでなく、そのユーザーの意識をしっかりと高めていくということというのはものすごく大事であり、そうすれば、結構お湯を使っても効率的に設備を使って、結果的にはそれほどエネルギーを使わなくてもできるみたいな、そういうことも十分、ユーザーの意識によってできるのではないかと考えている。本研究にはそういうところにも期待をしている。

(6) 今後の進め方について(資料12)

研究ロードマップの説明があり、今後の取組とスケジュールを確認した。

以上